

今日お話しさせて頂きたいことは、尊いものを尊くするには何が必要かという事でございます。

それは人です。

私達のご本尊さまや荒神さまという、尊いものをその対象物としか見ていないのです。自分を見ていないのです。自分が尊いものを尊くするという事を忘れていてのではないかという事です。

妙智會の先達の皆さんは、何かの時には必死でした。

目の色を変えて一生懸命に尊いものを信者さんに伝えていました。

だから信者さんもそれを受けて尊いのだと心の底から思い、導きやご本尊さまの誓願のご修行をされていました。心の底から尊いと思わなければ、人さまには通じないのです。

しかしながら、教団の教えの部分で「必死」というとても大事な心構えが薄まってきています。

本当に信者さんの事を思い、支部長さん役員さんとして救いたい、このご本尊さまは尊いから、沢山の方にお祀り込みさせて頂きたいという強い思いを持ってご修行をしていたかどうかです。

私達は、病気や困った時には目の色を変えて必死になります。

皆さんが必死で伝えることによって、必ず人は受け止めて下さいます。

私が心配しておりますのは、ご本尊さまご入神の時に感じた皆さんの「大変だな」と思う気持ちです。

皆さんが尊いものを尊くさせなければならないのです。

そこをしっかりと受け止めて、自分の困った事ではない事で必死になって頂くことを心の底からお願いし、この拝受式でのご指導と致します。